

この国のために できること

内閣官房副長官補付
命 内閣官房行政改革推進本部事務局員

石原 裕也

ISHIHARA Yuya

平成25年 4月 総務省採用
行政評価局政策評価官付
平成26年 4月 行政評価局総務課
平成27年 4月 行政評価局評価監視官付
平成28年 8月 現職



Question & Answer

Q. 10年後はどんな仕事をしていたい？

A. きっとまだ体力もあって元気だと思いますので、これまで携わったことのない新しい仕事に挑戦してみたいです。総務省内はもとより、他府省や自治体にも出向してみたいですね。今後、より活躍できるよう、様々な経験を積みたいと思います。

Q. 出向先から見る総務省の印象は？

A. 内閣官房のような政府の中核にいてより思うのが、総務省の存在の大きさです。政策評価、統計、情報公開、電子政府などの全政府的な取組には、必ずといってよいほど総務省が深く関わり、しっかり基盤を支えています。内閣官房は職員が少なく、総合調整の機能を果たすことがメインとなります。総務省のような、地方機関を有する巨大な官庁が全政府的な取組をバックアップしてくれるということは非常に助かりますし、日本の行政を支える上でなくてはならない組織だと思っています。

■行政改革に答えなし！

行政改革・・・皆さんはこの言葉にどのようなイメージを持ちますか。

政府はこれまでも常に行政改革を求められてきましたが、その対象は予算、組織、事業、内部管理業務など非常に多岐にわたります。私は、現在、内閣官房の行政改革推進本部事務局という組織に所属し、政府における「行政改革」の中心的な仕事に携わっています。私の担当は、BPR (Business Process Re-engineeringの略。業務プロセスの見直し)、EBPM (Evidence-Based Policy Makingの略。証拠に基づく政策立案)の推進です。耳慣れない言葉ばかりだと思いますが、早い話、政府の業務をどのように変えたらより良くなるかを考える仕事です。この考えるという点がとても重要で、何を目標に据えるのか、そのために何を調べ、何を換えればよいのかを手探りで考えていくこととなります。これは自分の力量が大きく反映されるところなので、困難である分、やりがいを感じることもあります。

■多様な分野で活躍したいなら ぜひ総務省へ

私がかつて国家公務員を志したとき、一つの分野にとらわれず仕事をしてみたいという思いがありました。総務省はそんな思いを実現させるのには、最適な場です。私はこれまで政策評価、行政評価局調査に携わってきましたが、ときには教育分野、ときには外交・安全分野など、実に様々な社会問題に対応する能力が求められます。また、本省にて企画したり、現場へ赴き調査したりと仕事の幅も広範です。私は以前、海外子女教育の実態を調査するために中東に出張しましたが、現地の日本人学校の指導者や生徒たちの姿を見て、行政はどう支援するべきかを改めて考えるようになりました。数字ではなく、実際に現場を見る重要性を痛感する経験となりました。

多様な分野を理解するため、勉強の日々になりますし、体力も必要になりますが、多種多様な課題を抱えるこの国のために頑張りたいという意欲と情熱を持った方をお待ちしております！



Private Life

見知らぬ土地を歩くと脳が活性化するらしく、とにかく暇を見つけては頻りに旅行しています。以前は、一人で海外に行き、怪しげな場所を巡るバックパッカーなんてこともしていましたが、今では結婚したこともあり、『いのちをだいに』に切り替えて、計画性のある安全な旅行を心掛けています(笑)

